

6. 夜が明ける前に

夜が明ける前に
ちゃんと夜を好きになっておこう
冷たい空気もその寒さも
必要だから訪れるもの

さよならの前に悲しみとも向きあっておきたい
その心を消しきったら
楽しい日々も消えさりそうで

時は流れ今は二度と訪れてはくれなくなる
もう逢えない人もいる
愛する気持ちだけ生き続けている

どうにか心は失わないまま
失った世界で笑えないだろうか
せめて次の朝を迎えられたなら
考えるよ 今ここにあるものはなんだろう？

変わらないモノを嘆く前に僕が変わってみる
諦める事や妥協じゃなく
違う世界も見て進むのさ

記憶の中閉じこもって
ないものねだりをするより
今逢いたい人がいる
生きてる僕にならそこまで行ける

どうにか心は失わないまま
大好きな笑顔にまた逢えるだろうか
もしも次に僕が旅立つとしても
笑いかけたい
僕が心を失わなければ
どんな世界だって同じ笑顔にできる
だから次の朝を迎えられたなら
繰り返すよ 今ここにあるものはなんだろう

夜が明ける前に
ちゃんと夜を好きになっておこう
そんな心なら安心して
長い夜も越えて行ける

夜が明ける前に

7. 花鳥風月

自問自答繰り返して
わかってるくせに嫌になる
悩むんならそれなりに
答えが見えてなきや無駄な事

気付いてんだ声に出さなきや
この程度の壁も越えられない
謎々は考え忘れた時にばかり解ける

花を咲かせ 鳥を追って
はかない目に映る温もりへ
風を受けて 月を見てた
予測も記憶も消えた今だけ
優しく染めあげ
ゆっくりと歩きだす

きらめく星に青い空
どれも君にはかわりはない
笑った声が聞こえたよ
なぜか胸が震えてやまない

時間に“ハッ”と驚かされる
避けられない季節は冷たくて
疑問符は消えないからこそ忘れる事もない

枯れゆく花 飛べない鳥
見えなくてもわかる感覚よ
風は止んで 月は潜む
大事にしても時は流れる
笑って受け入れ 新しい朝がくる

なびいた風に涼む鳥
そっと思い出を振り返る
花を魅せる月の光
何故か胸が苦しくならない

花を咲かせ 鳥を追って
はかない目に映る温もりへ
風を受けて 月を見てた
予測も記憶も消えた今だけ
優しく染めあげ ゆっくりと歩きだす
新しい朝がくる

8. 君の場所まで

生きていればそりゃ誰だって
多かれ少なかれ訪れる
出逢い（出逢い） 別れ（そして）
知らない事もいつしか想像できるようになる

全てが同じではないから
分け合えない悲しみもある
過去を変える力がなくても
未来を変える力は残されてる

君にとって僕の世界がどれほど狭く見えても
わかろうとして歩いた道は否定させない
君が望み君の心をどれほど暗く染めても
僕の中の同じ寂しさが
光指す方へ連れていくよ

知っているか知らないかより
知りたいかどうかで繋がるよ
早い（出逢い） 遅い（出逢い）
運命よりも今の大ききで選んでいくんだ

全てが同じだったとして
分け合えて救えるだろうか
違う形や違う温度が
重なり起こる摩擦の熱の光

眩しくって目を閉じたなら
嫌うほど見てはいないさ
まぶたの裏の部屋はもう
足の置き場もない
固定概念に取り憑かれた心を分別したなら
君が埋めた君の優しさが
たやすく謎々を解いてゆくよ

君にとって僕の世界がどれほど狭く見えても
わかろうとして築いた場所は否定させない
この世界の嘘や裏切り開き直り笑うより
僕も感じている寂しさと
光指す方へ歩いていこう

9. Absolute

振り返れば
とても幼いふたりだった
「まるでひとりぼっちのふたりだね」

どれほど愛を探しても
探す場所が自分の心なら
見つかるわけなんてない

追いかけて また迷って
僕らは再び歩きだす
消えないで そう願うよ
涙も笑顔もそのすべてを
また失ってしまわないよう
この今をギュッと握りしめるよ

思い出すよ
とても眩しい朝の日差し
「きつと夢を迎える光だね」

どうにか愛を掴んでも
掴んだ手のひらが汚れてたら
それは形を変える

嬉しくて 抱きしめても
それすら哀しみに変わるなら
吹き抜ける 風と共に
描いてた未来は消し去るから
僕の知らない遠い世界で
この今をギュッと握りしめてよ

追いかけて また迷って
僕らは再び歩きだす
消えないで そう願うよ
涙も笑顔もそのすべてを
また失ってしまわないよう
この今をギュッと握りしめるよ

握りしめるよ

10. HELP YOU

真剣に選んだ言葉を信じていいのか疑ってる
臆病に比例し誰かに聞いてくれないか求めて
いる

美しいとこだけ数えた世界を
都合よく「僕らの地球」などと呼んでいる
神は努力を報いはしない
そうさせたい人が多いだけさ

君のそのまなざし 君のその涙も
必ず誰かの今に生きている
あきらめない心も 上を見たがるのも
同んなじ愛が声を紡ぐから
想像を越えて君の声は僕らの想いを叶える

「平気さ」と言葉にする時
同時にどっか不安がある
勇敢と偽善の狭間じゃ
くすぶる人であふれてる

力もないのにに約束の声で
都合よく「守りたいものがある」と言ってみる
神に手を合わせる事よりも
胸に手を当てて記憶と歩くよ

君のその無邪気な 無知なその笑顔が
不安な未来の闇を消していく
あきらめない心も 上を見たがるのも
同んなじ愛が背中を押すから
危惧したどおりの未来もある
それを運命と呼ぶのなら…

早すぎる答えだ そんなたかが呼び名だろう
どうせ振り回されるなら
最初に真剣に選んだ言葉で
何度でも振り向けばいい

君のそのまなざし 君のその涙も
必ず誰かの今に生きている
あきらめない心も 上を見たがるのも
同んなじ愛が声を紡ぐから
想像を越えて君の声は僕らの想いを叶える